

1. 目的：看護職として、生きがいややりがいを持って働き続けるための確かな動機づけをし、あわせて看護と政治の繋がりと看護連盟の役割について理解を深める。
2. 日時・場所：平成 30 年 4 月 22 日（日）9：30～12：00 タワー 1 1 1 3 階 スカイホール
3. 参加者：新卒者、新就職者 314 名
4. 1) 講演「僕がこの 1 年で知ることの出来た本当の連盟活動」

講師 富山県看護連盟青年部推進委員会 委員長 盛田大樹

- 2) 講演「未来をひらく看護の役割」

講師 参議院議員（保健師・看護師） 石田昌宏先生

講演 1 要旨

看護連盟は、「政治」というイメージが強い。幹事長として活動している時は、積極的な活動ができなかった。しかし、青年部推進委員長をすすめられ不安であったが、愛知県ブロック、ポリナビに参加し活動の重要性を知る出会いがあった。連盟活動＝自己研鑽の場であり、世の中の情勢に目を向けることが大切だと思った。看護の代表を国政に送り出す意味は？雪害で看護師国家試験を受けることができなかった受験生のために、救済措置の決議があった。また、有給休暇がとれないなど、現場を良くするために政治力は不可欠である。患者により良い看護を提供するためには、法律、制度を理解することが大切で、看護職にとっては政治への取り組みは身近なものである。選挙投票率をみると、若年層の投票率が低く、医療従事者では、看護師の投票率が低い。若者達が高齢者の優遇を認める結果となっている。人員不足、増加する入院時書類など現場での問題は山積みであり、解決していかなくてはならない。不満を訴えるだけでは、現状は変わらず声を出していくことが大切である。患者、家族に寄り添った看護をしたいという今の気持ちを大切に持ち続けてほしい。良い先輩看護師を理想に持ってこれから頑張ってもらいたい。

講演 2 要旨

自分達が働いていた時と比べると、看護記録や入院時の書類などが増え、ベッドサイドケアができなくなって、現場が変わってきている。マンパワー不足があったため、看護師資格を持った人がどこにいるかわからず届け出できるしくみを作った。過去 70 年間看護師は増加し続けているが、12～13 年先、これ以上看護師が増えない時代が来る。高齢者が増えたため、医療費も増えたが、団塊の世代がいなくなると、医療費が減り、看護師も減っていく。そのため、仕事を減らす必要がある。今後は、看護師が増えなくても良い看護ができるよう業務を減らすことにチャレンジしていく。看護師が少なくなれば、個々の質を上げることが大切。業務をこなすことと、質の高い看護を行うことは別である。一生をかけて成長していこうとするモチベーションが大切である。いろんな体験を重ねてほしい。

科学技術の激変については、AI やロボットの進化がある。画像診断では AI が今後 1～2 年で専門医をぬく時代がやってくる。採血時に血管を診るエコーがあり、膀胱（排尿タイミングをみる）を診るエコーは今後数年後に開発される。アメリカでは 24 時間バイタルサインを測定、分析し、急変を察知、予告できる技術を持ち、傾聴ロボットというのものもあるかもしれない。看護はどうなるのか、看護師の仕事とは？看護は必要か？となる時代がやってくるかもしれない。今後、本当にやりたい看護ができるよう一人一人が成長していけるようにいろんな事にチャレンジしていこう。私達は、未来を見据え今後の事を考えている。

質問 1：将来看護学校の教師になりたい。科学技術の進歩によって教える必要性がなくなるのではと不安。

回答：技術を教えるのは、先生じゃなくてもいいかもしれないが、出会いが大切。いろんな体験から“看護”を語れる先生になってほしい。

質問 2：人間関係について政治で取り組んでいることはあるか。

回答：一生人間関係はつきもの。幸せを感じられるよう心がけよう。ある病院では勤務終了後うまく関わられた患者の所へ行って挨拶に行くようにした。すると、「ありがとう」など良い言葉をかけてくれるため、前向きな気持ちで帰ることができる。仕事に慣れたらやってみてほしい。自分のモチベーションを上げるコツを持つことが大切。

報告者 教育委員